

むらさき朝会～けじめのある生活～

1月の生活目標は、「けじめのある生活をしよう」です。生徒指導の椎山先生から、みんなが気持ちよく生活するための「学校の中のけじめ」について話がありました。学校には、校内は歩くこと、身の回りの整理整頓をすること、進んで挨拶や返事をする、丁寧な言葉遣いができること、学習の場でのきまりを守ることなど、けじめよく生活する場面が求められます。最近、「校内は歩くこと」への意識が少し希薄になっており、職員間でも話題になっていました。むらさき朝会の中で、特に注意して欲しい場所（校長室・職員室前、校舎間の渡り廊下、保健室前など）の画像を見せながら、子供たちに注意喚起を行いました。これから、子供たちには🍅帯西レドの心で、けじめについて考え、行動して欲しいと思っています。

学校の中のけじめ

- ・校内は歩くこうない ある
- ・身の回りの整理整頓をするみ まわ せいりせいとん
- ・進んであいさつや返事をするすす へんじ
- ・ていねいな言葉づかいを身につけるがくしゅう ば
- ・学習の場でのきまりを守るまも

今回紹介した「学校内のけじめ」の中の挨拶や返事、丁寧な言葉遣いは、家族間のあいさつ、返事、会話から一日が始まり、それが習慣となって子供たちの身に付いてくものと思います。我々大人が範を示し、子供が元気よく挨拶ができれば、「いいあいさつだね」「気持ちよかったよ」と、伝えていきましょう。それが励みとなり、習慣化し、様々な場面でその力を自然と発揮してくれると思います。

春の七草

昨日8日(水)の給食に、「七草和え」が登場しました。日本では、7日の朝に七草がゆを食べるという風習があります。今日も学校を巡回していると、「セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ、ホトケノザ、スズナ・スズシロ、これぞ七草」と4年生が暗唱していました。それでは、なぜ七草を食べるのかご存知でしょうか？七草がゆを食べる理由として、主に2つの理由があります。一つは、7種類の野草は、早春に芽を出すことから邪気を払ったり、それらを食すことで、七草の強い生命力のように長生きできたりするという理由です。2つ目は、1月7日に食べることでお正月行事が終わったことを示し、たくさん飲んだり食べたりして疲れた胃を休めるという理由です。



この七草の由来ですが、古代中国では、元日は鶏、2日は狗(いぬ)、3日は猪、4日は羊、5日は牛、6日は馬、7日は人、8日は穀の日と定め、それぞれの吉凶を占っていました。人が該当する7日は「人日(じんじつ)の日」とされ、「七種菜羹(ななしゅさいのかん)」という汁物をいただき、無病息災や立身出世を願ったと言われています。また、日本では、奈良時代から、雪の間から出た新芽を摘み植物の生命力をいただく「若菜摘み」という風習がありました。万葉集や百人一首にも、七草(若草摘み)の歌があります。そして、中国から人日の風習が伝わり、日本の若菜摘みの風習と合わさって「七草粥」が生まれました。七草粥は平安時代の宮中行事でしたが、江戸時代には庶民の間へ広まったとされています。

古来日本で若菜摘みが行われていた旧暦1月6日は、現代の2月頃にあたります。現代のお正月頃はまだ寒く、野草の新芽は殆ど見られません。そのため、実際に春の七草を採取する時期は2月中旬以降が適しているでしょう。春の七草は、水田、道端、畑など、身近な場所で見つけることができます。散歩がてら、春の七草を探してみるのも一興ですね。